



福島原子力事故関連情報アーカイブ

Fukushima Nuclear Accident Archive

Title	福島県富岡町における特定復興再生拠点区域の除染効果
Alternative_Title	Decontamination effects in the special zones for reconstruction and revitalization in Tomioka Town, Fukushima Prefecture
Author(s)	平良 文亨(長崎大学), 崔 力萌(長崎大学), 折田 真紀子(長崎大学), 山田 裕美子(長崎大学), 井出 寿一(原子力安全研究協会), 若松 津美(福島県富岡町役場), 滝沢 宜之(福島県富岡町役場), 高村 昇(長崎大学) Taira, Yasuyuki(Nagasaki Univ.); Cui Limeng(Nagasaki Univ.); Orita, Makiko(Nagasaki Univ.); Yamada, Yumiko(Nagasaki Univ.); Ide, Juichi(Nuclear Safety Research Association); Wakamatsu, Tsumi(Tomioka Town Office); Takizawa, Noriyuki(Tomioka Town Office); Takamura, Noboru(Nagasaki Univ.)
Citation	第 8 回環境放射能除染研究発表会要旨集, p.46 The 8th Workshop of Remediation of Radioactive Contamination in Environment
Subject	セッション：ポスターセッション
Text Version	Publisher
URL	https://f-archive.jaea.go.jp/dspace/handle/faa/182129
Right	© 2019 Author
Notes	禁無断転載 All rights reserved. 「第 8 回環境放射能除染研究発表会要旨集」のデータであり、発表内容に変更がある場合があります。 学会は発表の機会を提供しているもので、内容に含まれる技術や研究の成果について保証しているものではないことをお断りいたします。

福島県富岡町における特定復興再生拠点区域の除染効果

○平良 文亨¹⁾、崔 力萌¹⁾、折田 真紀子¹⁾、山田 裕美子¹⁾、若松 津美²⁾、滝沢 宜之²⁾、高村 昇¹⁾

¹⁾長崎大学原爆後障害医療研究所 国際保健医療福祉学研究分野、²⁾福島県富岡町役場

【目的】2011年3月11日に発生した東日本大震災及び東京電力(株)福島第一原子力発電所事故（以下、「事故」という）から、8年が経過した。福島第一原子力発電所の周辺地域では、事故由来の放射性物質の自然減衰や大規模な除染作業等により、環境中の放射線量は減少しているが、環境放射能レベルや放射線による健康影響に対する社会的な関心は高い。2017年5月19日、原子力災害からの福島の復興及び再生の推進を図るため制定された「福島復興再生特別措置法」の一部改正により、将来にわたって居住を制限するとされてきた帰還困難区域内に、避難指示を解除し、居住を可能とする「特定復興再生拠点」を定めることが可能となった。福島県富岡町では、2017年4月1日に避難指示区域の一部が解除されたものの、帰還困難区域（特定復興再生拠点区域）を有することから、2018年7月から先行除染が開始されており、町の復興・再生の加速化が期待される。そこで今回は、富岡町内の特定復興再生拠点区域における除染や解体作業に伴う環境放射能レベルを把握することを目的に線量調査を実施した。

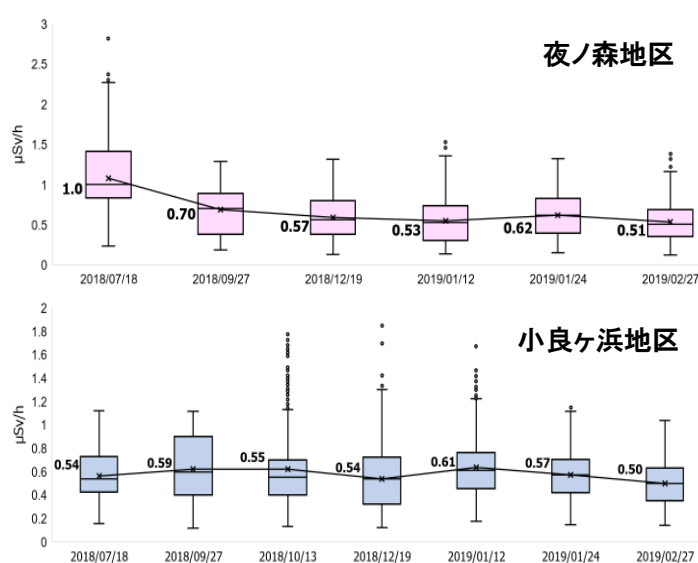
【方法】2018年7月～2019年2月の期間、富岡町内の帰還困難区域（特定復興再生拠点区域）における空間線量率の測定及び核種同定の定性分析を実施した。なお、調査にはラジプローブ®（株）千代田テクノル製）による走行サーベイを採用した。

【結果】夜の森地区では、調査開始時の空間線量率は $1.0\mu\text{Sv/h}$ （中央値）であったものの、その後経時的に減少し、現在では $0.51\mu\text{Sv/h}$ まで低減化の傾向にあった（図）。一方、小良ヶ浜地区では、放射性廃棄物の仮置き場設置のための区画整理が行われたこともあり、調査期間中の空間線量率に大きな変化はなく、 $0.50\mu\text{Sv/h}$ 前後であった。さらに、

空間線量率に寄与する人工放射性核種（放射性セシウム）を弁別し、当該核種の有無による解析の結果、調査開始時では空間線量率に占める放射性セシウムの割合が高かったものの、その後漸減していることが明らかとなった。

【考察】夜の森地区では、先行除染に伴い空間線量率に寄与している放射性セシウムの減少が認められた一方、小良ヶ浜地区では大きな変動は認められなかった。今後、さらに当該調査を継続し、除染効果の検証と空間線量率における放射性セシウムの環境動態の解明を目指す。なお、この研究の一部は、環境省委託事業「平成30年度放射線健康管理・健康不安対策事業（放射線の健康影響に係る研究調査事業）」において実施したものです。

キーワード：空間線量率、核種同定、放射性セシウム、外部被ばく線量



【図・表】空間線量率の経時変化